

1. 参加者について

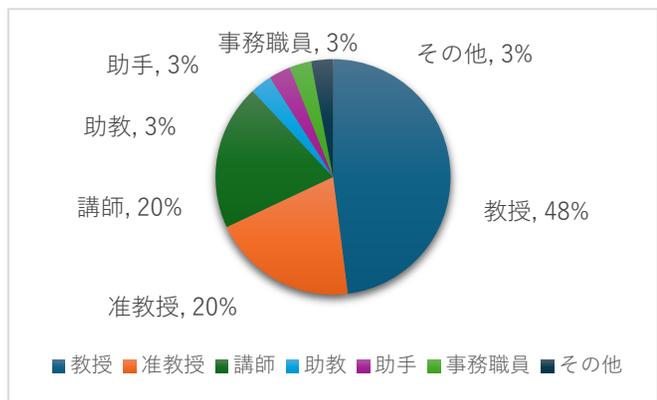
①所属

	人数	割合
大学	35人	100%
短期大学	0人	0%
合計	35人	100%



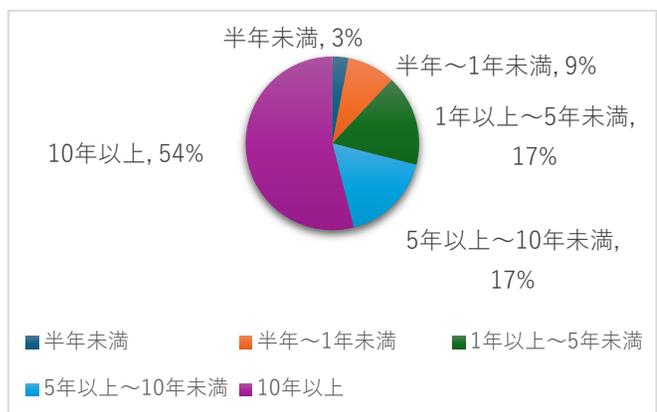
②職位

	人数	割合
教授	17人	48%
准教授	7人	20%
講師	7人	20%
助教	1人	3%
助手	1人	3%
事務職員	1人	3%
その他	1人	3%
合計	35人	100%



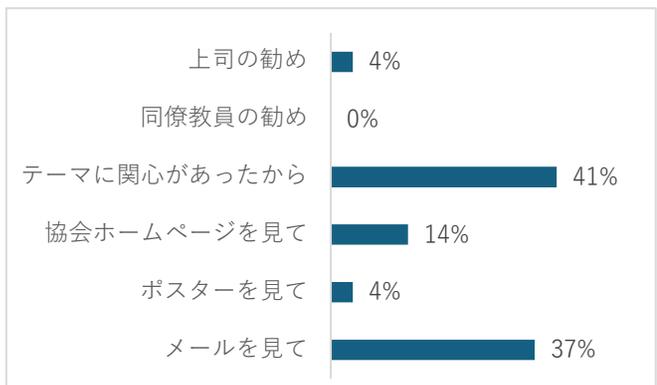
③在職期間

	人数	割合
半年未満	1人	3%
半年～1年未満	3人	9%
1年以上～5年未満	6人	17%
5年以上～10年未満	6人	17%
10年以上	19人	54%
合計	35人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	2人	4%
同僚教員の勧め	0人	0%
テーマに関心があったから	21人	41%
協会ホームページを見て	7人	14%
ポスターを見て	2人	4%
メールを見て	19人	37%
合計	51人	100%



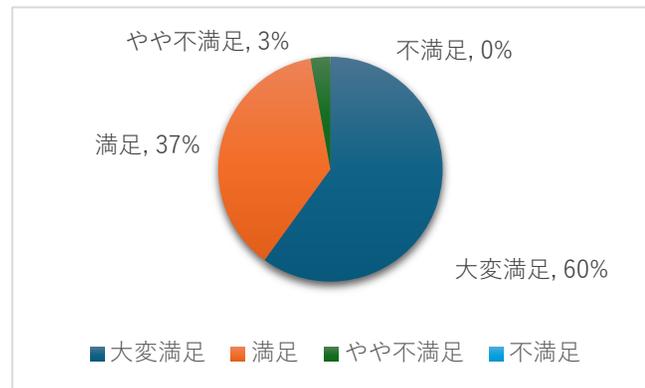
## 2. 講演について

「看護系大学における特別な支援を必要とする学生への教育支援の実際」

講師：西村 優紀美 氏（元富山大学 保健管理センター 准教授）

### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	21人	60%
満足	13人	37%
やや不満足	1人	3%
不満足	0人	0%
合計	35人	100%



### 2) ご意見、感想など

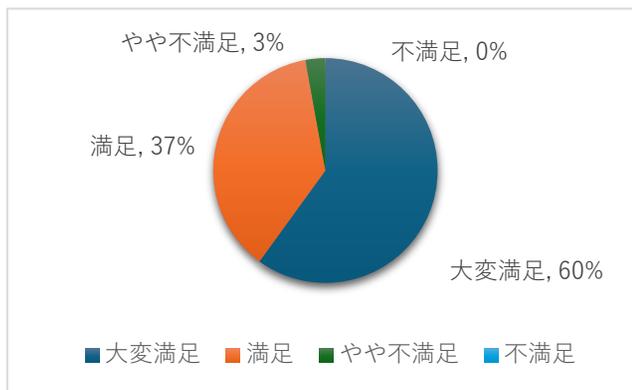
- ・とてもわかり易く、理解が深まりました。参加してよかったです。
- ・大学での教育をどこまでをゴールとして考えていくかが、難しいと思う。
- ・今後の教育に活かしていきたいと思います。
- ・具体的なお話で良かった。
- ・新しい知見を紹介いただけるので、よい学習機会となっている。
- ・学生支援について知りたいと思っていた内容でした。
- ・発達障害など本人も理解できていない場合も多く、どこまでの支援が可能なのか、どんな支援ができるのか模索している現状がある。本人からの申請がなくても気になる学生は多く（欠席が続く、講義の理解が追いついていない、課題を提出しないなど）、個別に気かけながら話をしていくことの必要性を感じた。
- ・知っている内容であったため、具体的な支援、実際の支援内容等を聞きたかった。
- ・何度かお話を伺っておりますが、やはり実際のこととなると難しさを感じてしまいます。特に臨地実習における合理的配慮は大学だけでなく、実習先との共通理解、協力なしにはできないと思いますので、本校もこれからの課題だと考えています。
- ・昨年に続いて参加しましたため、今年はADHD,ASD の学生への支援について(各1枚の表にお示しいただいた内容)時間をかけて具体的にお聞きしたかった。
- ・よくある間違いと望ましい対応の両方を提示して頂き、とても分かりやすいご講演でした。医療安全の視点での議論も必要と考えます。
- ・大学教職員が一致団結し、専門対応部署を立ち上げて、学生の誰一人不本意な退学、留年をしない仕組みをつくる。教職員も心身の安全を保ちながら教育に邁進できるようにしたい。

### 3. 指定発言について

発言者：越村 章子 氏（株式会社Cossy、当事者家族）

#### 1) 内容について

	人数	割合
大変満足	22人	65%
満足	12人	35%
やや不満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	34人	100%



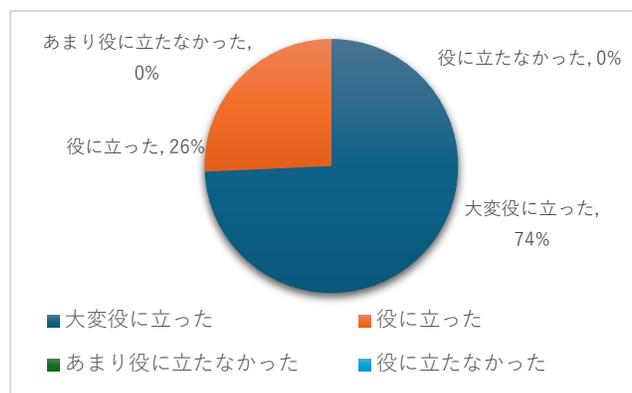
#### 2) ご意見、感想など

・教員に勇気と希望を与えてくださる内容でした。
・当事者（親）の実際の話が聞いてよかったです。
・分かりやすかった。もう少し話を聞きたかった。
・具体的なお話で良かった。支援した後、支援対象の生活が見えないところがあったが、知れて良かった。
・具体的でわかりやすかった。改めて、サポートについて考えさせられた。
・当事者家族からのお話が参考になった。
・家族の立場で行った支援や要望などをもっと知りたかった
・経験からの具体的な支援を聴くことができ、参考になった。チーム学校という考え方は必要であると思っている。可能な範囲でよいので資料をいただくとありがたい。
・保護者の立場からの意見は参考になった。当事者からの意見がきけるとさらによかった。
・チーム学校という考えについて、学生本人もその中の一員として自分は何ができるのかを一緒に考える機会が大事だと思いました。息子様が看護師として活躍されている姿に感動いたしました。
・支援のあり方により看護師になる目標を実現され素晴らしいと思い拝聴しました。一つのチームになれるよう、日頃の態度や言葉、環境づくりに心がけたいと思いました。
・当事者の視点の一端を知ることができました。PDF資料として共有して頂きたかったです。
・教職員、実習施設などご本人と協働して目標を達成して生き生きと活躍されている今。そこに至るまでの語られないご苦労があったのだろうと推察します。尊敬します。
・コッシーさんのお話をもっとお聞きしたかったです。

### 4. 研修会全体

#### 1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	26人	74%
役に立った	9人	26%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	35人	100%



#### 2) ご意見、感想など

・今後も定期的に今回のような企画内容を希望いたします。
・今後も今回のようなテーマを希望します。
・必要だと思います。午後の事例検討会は、遠隔での参加もご検討いただきたい。
・このような具体を教えてください。ものがよい。
・事例を踏まえていただくと理解が進むと思う。

・先駆的に取り組まれている先生の講演のみならず、当事者の方からのお話を聴くことができ、大変貴重な機会となりました。ただ遠方でZOOMでの参加でしたので、後半の事例検討に参加できなかったのが残念でした。ZOOMでも事例検討できるような機会をつくっていただきたら、なお有意義な研修となったのではないかと存じます。
・タイムリーなテーマで不足していた内容が分かった。
・大変有意義でした。更に具体的な配慮内容など、差し支えない範囲でお聞きしたかったです。
・できれば、日曜日はさけていただきたい。略歴の紹介は、スライドに示していただき、講演の時間を確保するほうが良いと思いました。
・切実に取り組まなければならないテーマだと思いますので、また機会がありましたらお願いいたします。
・指定発言の資料もご提供頂きたい。講演時間内に終わるルールを、座長・演者ともに徹底してはいかがでしょうか？
・今回のテーマは継続して各大学の活動推進を支援していくべきと考える。
・進行がもっとスムーズだとよかった。

## 5. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

### ①希望するテーマ

・変化する学生気質に対応するための教育手法
・オスキーについて
・組織のハラスメント：これだけアカデミックハラスメントの対応が言われていても、いまだに職位によるハラスメントが収まらない。ハラスメントされた側の、対応を知りたい。
・学生の実習での看護実践能力獲得に向けた支援について
・発達障がい学生が卒業するための必要事項に、国試受験資格は必要か？臨床せずとも、当事者研究としての研究者としての道は開かれているのか？
・DX化、AIなどに伴い、教員としてリスクやトラブルを防止する方法
・引き続き、配慮を要する学生について
・障害学生支援の組織づくりと実際の活動について
・少子化時代に私立看護大学はどのように生き残るのか

### ②開催時期

・2月 (2)
・3月 (5)
・9月 (1)
・夏季休暇期間 (1)

### ③開催方法

・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信） (19)
・会場とオンラインのハイブリッド形式 (14)
・会場開催 (0)

### ④開催場所

・アルカディア市ヶ谷 (1)
・甲信越地方 (1)